

## 資生堂、企業文化誌「花椿」を全面リニューアル ～ウェブに続いて紙版も全面改訂、季刊誌として新たにスタート～

資生堂は、企業文化誌「花椿」の紙版を全面的にリニューアルし、若い世代に向けた季刊誌としてスタートします。新装刊パイロット版の「0号」を2016年11月1日(火)より、資生堂銀座ビル(GINZA COMMUNICATION SPACE)、資生堂ギャラリー、資生堂パーラー、SHISEIDO THE GINZA、資生堂企業資料館などの資生堂関連施設において無料で配布します。季刊誌は2017年より4月、7月、10月、1月の10日に発行し、若い世代とのコンタクトポイントとなる書店などの取扱い場所を随時増やしていく予定です。

### 新装刊「花椿」について

資生堂は、2020年までの中長期戦略「VISION 2020」で若い世代へのアプローチを重視しています。一方でメディア環境が急激に変化していることも踏まえ、「花椿」は全面リニューアルのため2015年12月号をもって月刊としての発行を終了しました。2016年6月には先行してウェブをリニューアルしていましたが、このたび紙版も新たに季刊誌としてスタートします。季刊誌としてリニューアルした紙版、ウェブとも、時を経ても色あせない本質的なモノを見つけることに主眼をおいています。一過性の流行を追い求めるのではなく、流行の中に潜む、本当にいいものを見つけ出し、読者から信頼されるメディアを目指します。

ウェブでは日々新しい情報を発信し、季刊誌では毎号、ひとつのテーマを掲げて特集を組んでいきます。新装刊0号では「タッチ」をテーマに、普段あまり意識していない「触覚」に着目し、3本の特集記事(Feature)を掲載しています(①ふれあいをテーマにした、写真家・アーティストのペトラ・コリンズ氏によるフォト・ストーリー、②最新の皮膚科学研究により、「触覚」が想像以上にヒトの認知や行動に影響を及ぼしていることを明らかにするサイエンスコラム、③各界で活躍する方々が触れて心地よいものを紹介するインタビュー記事)。また、4本の連載記事(Regular)と2本のウェブ連動記事(Spin-Off)を掲載しています。その他、「Book in Book」として、古今東西の小品を厳選、紹介する「花椿文庫」を綴じ込んでいます。第1作は、アメリカの小説家・劇作家・ウィリアム・サローヤン氏の代表的短編「心が高地にある男」を柴田元幸氏の新訳でお届けしています。



一人ひとりの中に存在する多面性を表すため、表紙は同一モデルで2種のビジュアルを制作

### 「花椿」のこれまでと今後の展開

「花椿」は1937年に創刊、その前身である「資生堂月報」(1924年創刊、1933年に「資生堂グラフ」に改訂)を含むと、90年以上にわたって刊行を続けてきました。「美しい生活文化の創造」の実現を目指し、人々が美しく生きるためのさまざまなヒントをお届けすることを目的に、時代に先駆けた新しい女性像や欧米風のライフスタイルなどを提唱してきました。

昨今のメディア環境の急激な変化を踏まえ、今後「花椿」は、日々の暮らしに寄り添う「日めくりカレンダー」のようなウェブと、季節ごとにひとつのテーマを掘り下げてお届けする季刊誌の、ふたつでひとつのメディアを目指し新たな読者層との出会いを広げていきます。

## 新装刊 0 号の内容

○新装刊日:2016 年 11 月 1 日(火)

○発行:資生堂 企業文化部

○仕様:A4 変型、本誌 56P

○取扱い:資生堂銀座ビル(GINZA COMMUNICATION SPACE)、資生堂ギャラリー、資生堂パーラー、SHISEIDO THE GINZA、資生堂企業資料館 等の資生堂関連施設

## ○目次

|                            |                                                             |                                                                                                                                 |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Feature<br>(特集記事)          | P2-14<br>Feels of Rainbow                                   | ふれあいをテーマにした、写真家・アーティストのペトラ・コリンズ氏によるフォト・ストーリー。                                                                                   |
|                            | P15-23<br>肌思う、ゆえに我あり!?                                      | 資生堂グローバルイノベーションセンター主幹研究員・傳田光洋のインタビュー記事。                                                                                         |
|                            | P25-31<br>ふれたいものとわたし。<br>みうらじゅん、珠寶、MAPPY、<br>佐藤葉里、森岡督行      | 各界で活躍する方々が触れて心地よいものを紹介するインタビュー記事。                                                                                               |
| Regular<br>(連載記事)          | P32-33<br>詩   ふれた永遠<br>最果タヒ                                 | 第 1 回は、2015 年度の現代詩花椿賞受賞者、最果タヒ氏の書き下ろし作品。                                                                                         |
|                            | P34-35<br>BEAUTY/INSPIRATION/ART<br>原田マハ、百合佐和子              | 小説家・原田マハ氏が選んだアート作品をモチーフにした、資生堂シニアヘア&メーキャップアーティストの百合佐和子による創作ヘアメーキャップ。                                                            |
|                            | P36-43<br>TOKYO STORY<br>Vol.1 銀座西側アンダーグラウンド<br>チャーリー・エングマン | 変わりゆく東京の街並みを背景に、「今」のスタイルを写真家・チャーリー・エングマン氏が撮影したファッションページ。                                                                        |
|                            | P44-47<br>サロン・ド・バー花椿 第一夜<br>Chara、松田龍平                      | 架空のサロン・ド・バー花椿のママに扮した、歌手のChara氏による対談。<br>第一夜のゲストは俳優の松田龍平氏。                                                                       |
| Spin-Off<br>(ウェブ連動記事)      | P48-49<br>花椿実験室 with ユーフラテス                                 | 「ウェブ花椿」のコンテンツと連動し、見る人の創造力を使うことでイメージが完成する、新しい表現の実験。                                                                              |
|                            | P50-51<br>銀座時空散歩「洒落男」<br>寺尾紗穂、大森克己、東出昌大                     | 音楽家・文筆家の寺尾紗穂氏がつむぎ出す、銀座を舞台にした「あの頃」のはなし。<br>第 1 回は戦前の流行歌を題材に、俳優の東出昌大氏演じる「洒落男」を写真家・大森克己氏が撮り下ろし。ウェブでは、寺尾紗穂氏の歌唱・演奏による「洒落男」のカバーも公開予定。 |
| Book in Book<br>(綴じ込みの文庫本) | 花椿文庫   心が高地にある男<br>ウィリアム・サローヤン 柴田元幸訳                        | 古今東西の小品を厳選、紹介する「花椿文庫」。第 1 作は、アメリカの小説家・劇作家・ウィリアム・サローヤン氏の代表的短編「心が高地にある男」を柴田元幸氏が新訳。                                                |



Feels of Rainbow



ふれたいものとわたし.



BEAUTY/INSPIRATION/ART



TOKYO STORY



サロン・ド・バー 花椿



銀座時空散歩「洒落男」